

日本痛風・尿酸核酸学会 評議員会議事録

開催日時：令和4年2月7日（月）17:30～19:00

会 場：ZOOM 開催のため各自勤務先等

(1) 金子理事長が議長となり、午後17:30に開催を宣言した。審議に先立ち議長より本日の出席状況は下記の通りと報告された。評議員49名 出席者28名 委任状提出者11名 欠席者10名 監事出席者2名 名誉会員出席者6名 続いて下記審議が行われた。

(2) 続いて予め配布された議案資料に沿って以下の通り審議が行われた。

【第1号議案 令和3年（2021年度）決算・監査報告】細山田先生、板倉先生

細山田庶務幹事より、配布された決算書に基づき令和3年決算内容の説明があった。正味財産が56,568,447円となり前年度に比べ、6,086,214円増加したことが報告された。その後、板倉監事より監査報告があり業務執行状況や事務手続などは適正に行われているとの報告があった。議長が議案1の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て決算報告は承認された。

【第2号議案 令和4年（2022年度）予算案】細山田先生

引き続き細山田庶務幹事より、配布の予算案に基づき令和4年の予算内容の説明があった。2月にガイドラインの追補版が出版されることから印税で350万、転載利用料金で450万計上している。経常費用については総会開催費の見積金額を入れており、あとはおおよそ例年通りの予算で組んでいるとの説明があった。議長が議案2の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て予算案は承認された。

【第3号議案 第57回総会（2024年開催） 会長選出】金子理事長

金子理事長より第57回総会の会長候補者として鳥取赤十字病院 副院長の荻野和秀先生を推挙することが提案され、出席者全員の賛意を得て承認された。荻野先生より2年後の開催ということでこれから詳細を決めていくが、鳥取市で開催予定とのことであった。

【第4号議案 令和3年（2021年度）学会賞受賞者決定報告】金子理事長
令和3年度学会賞は名誉会員・理事・評議員より推薦された候補者を選考
委員会で厳正に審査した結果、防衛医科大学校 分子生体制御学 講師
中山昌喜先生に決定したことが金子理事長より報告された。

【第5号議案 令和3年度優秀論文賞受賞者決定報告】市田先生
前年1月～12月の間に本学会機関紙に掲載された痛風と尿酸・核酸代謝
に関する原著論文及び症例報告の中から選考委員会で審議の結果、優秀論
文賞は福井大学 此下忠志先生、東京慈恵会医科大学 本田康介先生、同
じく東京慈恵会医科大学 栗山哲先生に決定したことが市田編集委員長
より報告された。

【第6号議案 編集委員会報告】市田先生

市田編集委員長より下記の通り報告があった。

1. 令和3年のJ-Stageアクセス数は月平均27,090アクセスだった。今
までは抄録毎に個別でカウントされていたアクセス数が、後抄録を廃止
し、プログラム抄録集をPDF掲載にしたことで、一アクセスで最後まで
閲覧可能になったためアクセスという意味では少し変化があったとのこ
と。
2. 令和3年学会誌の掲載論文数は総説、原著あわせて14編だった。
順調に推移している。
3. 転載利用料金が他学会と比較すると安価だったため、料金の見直し
を行い、当学会ガイドラインの規定を簡略化してそのまま踏襲すること
となった。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認さ
れた。
4. 優秀論文賞内規の改定を行った。第1条の学会の名称変更に伴う部
分や第3条の著者自身が審査に関与しない等。副賞の金額については、
毎年変わるのをおかしいという意見があったので毎年固定とし、最優秀
論文賞に20万円、優秀論文賞に10万円とした。これについては前回の
理事会ですでに承認されている。議長が賛否を諮ったところ、出席者全
員の賛意を得て承認された。
5. 学会総会における優秀演題賞選考内規案を作成した。内規には学会
総会長が弾力的に運用できるように「原則として」という文言を第4条
の1)にいた。内容としては演題登録の段階で3つの部門にエントリ
ーしていただき、Abstractの段階で各部門から1名ずつを選出する。残

りの2名は総得点から選び、可能であればその5名によるセッションを1日目に組み込み、最優秀演題賞を1つ選定する。あとの4つは優秀演題賞とする。1日目で組めれば懇親会で表彰することも可能となる。始める時期としては四ノ宮先生の第56回総会からになる。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。

【第7号議案 ガイドライン広報委員会報告】内田先生

内田委員長より1年間の活動が報告された。会員に優位な専用のページを作りガイドラインのキースライドを自由に使うよう公開した。さらに最近ではダイバーシティ委員会で行ったアンケートの結果も掲載している。学会公式のバーチャル背景も審議を重ね作成した。新型コロナウイルス感染拡大で近年市民公開講座が開催できないので、YouTubeで痛風と高尿酸血症の動画を作った。一般の患者さんに分かりやすいように委員の先生方にクリニカルクエスト毎にパワーポイントで動画を作ってもらい、それに音声を入れ内田委員長と三橋さんが編集し完成させた。委員・理事への限定公開を経て一般公開し、本日現在で265回の視聴回数で8つの「いいね」を取得している。

Mindsよりガイドラインの活用状況をBeforeと2年後で報告するよう伝えられており、浜田先生にアンケート結果を纏めていただき、今回の総会で発表していただく予定である。

【第8号議案 中国語翻訳版に関する経費について】内田先生

中国語版について、日本よりも高尿酸血症・痛風の患者が10倍多いと言われている中国なので、需要もあるだろうと考え、出版に向けて準備を進めてきた。昨年4月で完成しあとは製本する段階だったが、天津科技翻訳出版社と翻訳者との間に、(出版費用が自費出版と見なされ、5万円の請求が翻訳者にいくという)行き違いがあり、その問題について、診断と治療社とタトル・モリエージェンシー、中国出版社、本学会とで協議してきた。この件について、学会が相談してきた税理士、弁護士より解決策として3つの条件が提案された。

- ①GL 中国語翻訳版出版に関して5万円の「出版協力金」を学会から支出することを理事会・総会で認可いただくこと。
- ②GL 中国語翻訳版出版に関して、①以外の支出に学会が応じる必要は将来に亘ってないことを確認すること。
- ③①の支出後にGL中国語翻訳版が180日以内に出版されない場合、同額を学会に返還すること。

この3つの条件が理事会・総会で認可されたのち中国翻訳出版社に確認する予定であるとのこと。出版協力金5万円を学会から内田先生に支払うため、③の場合同額を内田先生から学会に返還することとなる。もともとガイドライン広報委員会の予算として200万円計上していたが、実際には22万円しか使わなかったこと、さらに内田先生が2月から名誉会員になられるのでCOIの観点からも問題ないことが説明された。議長が賛否を諮ったところ、賛成多数（97パーセント）で承認された。

【第9号、13号議案ガイドライン改訂委員会報告】久留先生
追補版について今年2月中旬に発刊予定である。内容は大きく2つに分かれており、1つは浜田先生を中心に行ったガイドラインの現状・モニタリングの結果、さらに診療にどのような影響を与えたのかなどを掲載しており、もう1つは痛風・高尿酸血症治療薬ドチヌラドについてである。第3版に関連する本はもうすべて出版したので、第4版の作成に取り組む時期が来たと思っている。

【第10号議案 ダイバーシティ推進委員会（2021年2月発足）報告】

金子理事長

昨年2月に発足し3回委員会を行った。まず男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー会員として入会した。2021年4月に学会員を対象に学会参加に関するアンケートを送って、結果を会員専用のページに掲載した。女性学会員と女性の評議員が少ないという声や、医師や看護師より託児室を併設してほしいという声などがあつた。津谷会長の第55回から託児所の併設を予定し、保育師も2名準備していたがオンラインになってしまったので、第56回の四ノ宮先生の時をお願いしたい。また、ニーズ調査アンケートは今回学会参加者を対象に行うこととし、準備を進めている。さらに若手委員会と協力して、隔年でその委員会のセッションを1つ作っていく予定。第55回が若手委員会なので、第56回の四ノ宮先生の時はダイバーシティ委員会となる。5月ごろまでに案を作成する。

【第11号議案 若手委員会（2021年5月発足）報告】阿部先生

目的は若手を中心とした自由な発想で議論し学会を活性化していくこと。昨年は5月～12月にかけて6回活動を行った。次年度の目標としては様々な分野の先生がいるので共著論文を執筆すること、ジョイントシンポジウムを行うこと、ベテランの先生方に尿酸関連の若手研究者を紹介して頂くこと、若手とベテランの交流の場を設けることなどを掲げた。

【第12号議案 ありかた委員会報告】金子理事長

若手委員会とダイバーシティ推進委員会で総会時1年おきに1つのセッションを作っていきたいが、行わない年があっても良いと思うので臨機応変に取り組んでいきたい。

富士薬品より当学会の若手研究者を支援したいと打診があり、若手研究者賞内規案および若手研究助成募集要項を作った（それぞれ英語名も作成）。資金の流れは寄付と連携協定があったが、1つの会社と特定の関わりがあると思われる可能性があるため、富士薬品からの寄付とし学会から毎年趣意書を出して公募し申請してもらうスタイルにした。Awardと助成の受賞者発表は5月に本人に通知し、夏頃WEB講演会時に公表、受賞者による講演を行う予定。議長が賛否を諮ったところ、承認された。

ダイバーシティ推進委員会より、昨年もオンライン開催のため現地で顔が見られなかったため、10名程度のブレイクアウトルームを使ったオンライン懇親会を企画している。若手委員会やダイバーシティ委員会が進行係になっている。初めての試みだが気軽に参加してほしい。

【第13号議案 WEB講演会企画～新しいガイドライン作成方法に関する最近のトレンド講演会～】久留先生

2016年のバージョンからシステムアップし2020年にMindsの診療ガイドラインの作成方法が変わっているため継続的に方法論について理解していく必要がある。会員にガイドライン作成方法が変わったことを共有するために最近のトレンドのWEB講演会を行いたい。季節は夏頃の日曜日。京都大学の中山先生、静岡県立大学の佐藤先生に新しいガイドラインのポイントを講演頂く予定。その上でガイドライン第4版組織作りに取り組むたい。

【第14号議案 認定痛風医資格制度委員会報告】谷口先生 代理 金子理事長

昨年はWEBによるオンデマンド試験を行った。監督は谷口先生と三橋さんで、2名が試験に挑んだ。1名は合格し、1名は不合格であった。認定痛風医の申請は新規2名および更新20名から出され、これについて議長が賛否を諮ったところ、承認された。第11回教育研修会を2月～3月に受け付け、視聴期間を4月中にするとのこと。

【第15号議案 役員改選】金子理事長

(i) 理事の改選

任期満了による退任 1 名 内田俊也理事

新規選任 3 名 大山博司評議員、荻野和秀評議員、森崎裕子評議員

(ii) 評議員の改選

任期満了による退任 2 名 飯笹泰藏評議員、日高雄二評議員

本人からの辞退 1 名 浜口朋也評議員

新規選任 1 名 寺本 圭先生

(iii) 名誉会員の承認 内田俊也理事

(iv) ガイドライン広報委員長 市田公美副理事長

議長が改選案の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意により原案通り承認された。

【第 16 号議案 庶務幹事報告】細山田先生

会員数は 557 名でそのうち会費未納 90 名。コロナ関連の情報を掲載したこともあり、HP へのアクセスが昨年度より 1.45 倍増加。学会の収支について 2019 年から収入が増えており、現在剰余金は 5000 万円程度ある。賛助会費は年々減っているが、それが寄付金に変換しているケースもある。収入が 600 万円程度伸びている大きな原因はガイドラインの印税および転載許諾料金、総会時の返戻金にある。学会誌は電子化して広告がなくなったが、転載許諾料金で以前と同等に近い収入になった。転載許諾料金の改定によってさらに収入が見込めると思う。交通費謝金に関する内規について接遇規定が 2 年前に決まったのでそれを反映している。議長が交通費謝金に関する内規について賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意により原案通り承認された。

【第 17 号議案 第 56 回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】四ノ宮先生 今回のテーマである「知の探淵へ」を英語にして縦に読むと「URATE」となっている。まだコロナの状況が読めないので何とも言えないが願わくは現地開催したい。日程は 2023 年 2 月 23 日（木）・24 日（金）で、会場はグランドヒル市ヶ谷を予定している。学会のプログラムの中にダイバーシティ推進委員会のセッションを入れることや、優秀演題賞のことも企画していきたい。HP が立ち上がり次第案内したい。

【第 18 号議案 第 55 回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】津谷先生 現地開催で準備を進めていたが、急速なオミクロン株の影響により難しく


なり、昨年末にオンライン開催に切り替えた。限られた状況になってしまったが、有意義な会にしたい。積極的にご参加頂き、盛り上げて頂きたい。

【第19号議案 その他】
なし

以上で評議員会の審議はすべて終了し、議長は19時00分に閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び監事が記名捺印する。

令和4年 2月 7日

理事長 金子 希代子 

監 事 板倉 光夫 